

## 2023 年度 第 2 回鈴鹿地区 MTK 報告書

2023.9.16 18:00~19:30

三交 G スポーツの杜 鈴鹿 参加者 21 人

FA コーチ樋口士郎氏を招聘し、地区 4 種代表者会議の前に、「2022 年度全日本 U-12 サッカー選手権大会 T S G 報告」を基に講義をいただき、学ぶ機会を得ました。

### ○決勝戦映像：レジスタ FC vs 柏レイソル

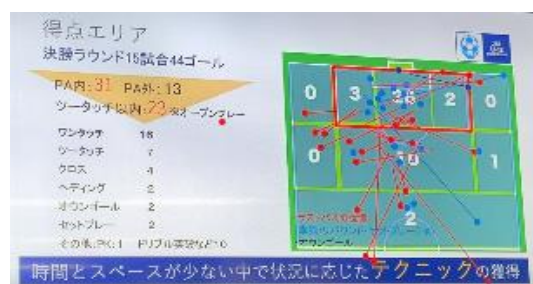
2 - 0 でレジスタ FC が勝利

- ・タウンクラブのレジスタ FC が大会連覇。
- ・U15 の決勝もタウンクラブ対決となるなど、J アカデミーにも負けない指導がなされている。



### ○得点：決勝ラウンド 4 4 ゴール (PA 内 3 1 ゴール)

- ・クロスからの得点が少ないのは 4 種の特徴であろう
- ・時間とスペースが少ない中で状況に応じたテクニックの獲得が必要



### ○全員が出場したチームは 10 / 48 チーム

- ・フレンドリーマッチが設定され工夫はあるものの U12 年代では全員が公式戦のピッチに立たせたい
- ・全員を出場させながら、良い意味で勝負にこだわる姿勢を持ちたい。

### 【大会の傾向】

#### ●攻撃：ゴールを奪う！キック力向上 (PA 外シュート増)

- ・プレスをはがす個のテクニックの高まり。
- ・本質の追求。ゴールを目指す意識の高まり。

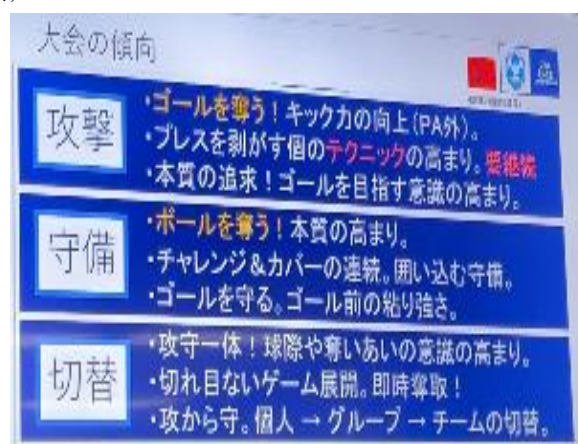
#### ●守備：ボールを奪う！本質の高まり

→ 昨今、JFA が「奪うことを」強調している  
代表が強化されてきている要因でもある

- ・チャレ&カバーの連続。囲い込む守備。
- ・ゴールを守る。ゴール前の粘り強さ。

#### ●切替：攻守一体！球際や奪い合いの意識の高まり

- ・切れ目ないゲーム展開。即時奪取！
- ・攻から守。個人→グループ→チームの切替



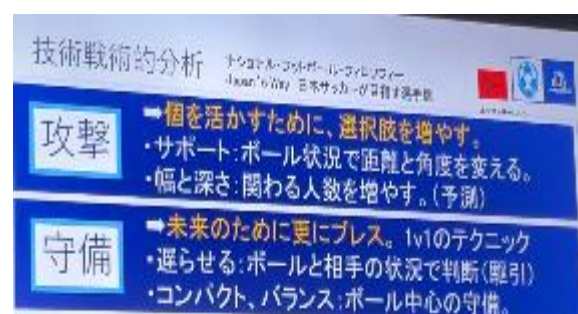
### 【大会の課題：技術戦術的分析】

#### ●攻撃：個を活かすため選択肢を増やす

- ・サポート：ボール状況で距離と角度を変える
- ・幅と深さ：関わる人数を増やす (予測)

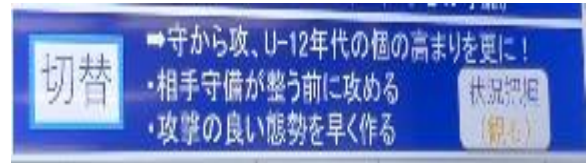
#### ●守備：未来のためにさらにプレス。1 v 1 のテクニック

- ・遅らせる：ボールと相手の状況で判断 (駆引き)
- ・コンパクト、バランス：ボール中心の守備。



●切替：守から攻、U12年代の個の高まりをさらに！

- ・相手守備が整う前に攻める（守から攻の目的）
- ・攻撃の良い態勢を早く作る（守から攻の目的）
- ※状況把握（観る）



【GK（守備）】

- ブレイクアウェイ：良い(青)、課題(赤)
  - ・DF背後の広いエリアを守る。 ・テクニックの発揮(クリア、ビルドアップ、フロントディフェンシング、ブロック)
  - ・リスクマネジメント（指示を出せる GK は少ない）
  - ・ボール状況とスタートポジション ・プレーの判断
- クロス：良い(青)、課題(赤)
  - ・積極的なチャレンジ
  - ・ポジショニング（開始姿勢、ニアポストに寄って立つ、ゴールライン上に立つ） ・テクニック（ジャンピングキャッチ）
- シュートストップ：良い(青)、課題(赤)
  - ・ゴールを広く守る ・至近距離のシュート対応
  - ・基本テクニック（ポジショニング、基本姿勢と構えるタイミング、キャッチング）

【GK（攻撃）】

- パス&サポート：良い(青)、課題(赤)
  - ・テクニックの発揮（ミドルパス、ロングパスからの攻撃）
  - ・GKのサポートポジション、味方選手のサポートポジション ・相手を観て判断を変えることが出来ない
- ディストリビューション：良い(青)、課題(赤)
  - ・プレスキック、ボレーキックのテクニック（ロングパスからの攻撃） ・ゴールキックからの意図的な攻撃
  - ・ロングパス多く素早い攻撃が少ない(スローで始める) ・相手を観て判断を変えることが出来ない

【育成年代で育てるべき選手像（Japan's Way より）】

- 自分の武器を持ち、様々な状況でチームのために生かすことが出来る選手
- ・どこに行っても、いかなる監督、システム、戦術の中においても、自身の強み、個性をチームのために発揮できる選手。
- ・元四中工監督である城 雄士氏が、つねづね語られていた言葉  
「育成は原理原則、ベースを作ることが一番大事。プラス長所を伸ばしてやれ。」
- ・今の代表選手に求められるものは、「守備のタスクを果たしつつ、自分の武器を発揮できること」
- ・育成年代はマニアな戦術ではなく原理原則を身につけさせ、その上で選手の特長を伸ばしていきたい



【樋口FAコーチより】

- 今回のTSG報告は大人のサッカーに寄ったイメージがあるが、それは全小においても、インテンシティーが上がり、よりサッカーの本質に近づいてきているためである。4種年代においても、ハイプレッシャーの中で「質を追求」していくことが求められるようになってきている。
- 4種年代でこれまでも大切にされてきた「自由な発想・アイデア」「テクニック」「観て判断する」といった力を、ハイプレッシャーの中で身につけさせていってほしい。
- そしてより本質に迫るため、今回のTSG報告を参考にさせていただければと思います。